

候。并六供之寺をも進退可有之候。尙彼供僧衆兎角申者在之者、急度重而可申付者也。

壬十月廿一日

禪經坊(定数)

座下

續(遊佐) 光 在判

(遊佐續光は天文廿二年敗れて越前に走りしが、是に至りて能登に還住せしなり。)

【妙嚴寺文書】

一三六六

西方寺とちろ平横は山方之義、如先規三ヶ年ニ一度相納候之様ニ可被仰付事簡要候。恐々謹言。

遊(遊佐信濃入道)

八月三日

宗 圓 在判

松 若州

御宿所

(第二通は年次不詳なりといへども、西方寺山に係るものなるを以て茲に之を合叙す。)

弘治二年 丙辰 紀元二二一六

正月廿九日。能登守護畠山義綱の奉行人等、鳳至郡諸橋六郷より柵に用ふる木材を徴す。

【諸橋文書】 鳳至郡

一三六七

(前缺)

御構柵之木壹間二拾本宛、并(ト)ねそハ白口以下申合被相調、爲諸橋六郷百間、來十日以前ニ急度可被納之旨、依仰配符如件。

弘治貳

正月廿九日

時 長 □□  
景 連 在判  
續 親 在判  
續 朝

三宅 鶴千代殿

同九郎右衛門尉殿

伊 丹 殿

【道興寺文書】

羽咋郡

一三六九

禁 制

道 興 寺

於境内門前、甲乙人等狼藉并竹木採用、任先例慥令停止之狀如件。

弘治二丙辰九月五日

秀 章 在印(得田佐渡守)

十月十日。能登守護畠山義綱、飯川光誠に、義綱の先に敗戦の際笠松新介の功ありしを以て、之に知行を與ふべきこと命す。

【笠松文書】

一三七〇

今度相破候砌、笠松新介早速馳走候。殊種々馳走共神妙候。相當之壹所可申付候。彌可抽忠功由可申聞候。謹言。

十月十日

義 綱 在判(畠山)

飯川若狭守殿(先缺)

(弘治三年二月廿七日の條参照。)

十二月朔日。能登守護畠山義綱、王子孫七郎に、

九月五日。得田秀章、羽咋郡館開道興寺に制札を與ふ。

【笠松文書】

一三六八

今度入城之砌、一廉用ニ御立候。就夫千疋并五人扶持、如前々申談候。御取次之内より、全可有納之狀如件。

弘治二年

光 誠 在判(飯川若狭守)

二月廿八日

笠松新介殿へ參